

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度 第2回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	平成26年7月30日(水) 午後6時00分から 午後8時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所第2庁舎204会議室
出席委員(者)氏名	和泉広恵会長、田中公明委員、戸張精一委員、林美希委員、 小助川美穂委員、林桂委員、五十嵐修委員
欠席委員(者)氏名	長井圭子委員
担当課職員職氏名	健康福祉部 副部長兼保育幼稚園課長 戸張悦男 子育て支援課 課長 岡田なるみ 子育て支援課子育て支援係 係長 木村みのり 子育て支援課子育て支援係 主任 城取直樹 保育幼稚園課課長補佐兼子ども・子育て支援新制度係 係長 岡崎久詩 保育幼稚園課保育係 係長 渡辺剛 保育幼稚園課子ども・子育て支援新制度係 小川麻衣子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) 量の見込みの考え方について (2) 計画素案について (3) 子ども・子育て支援新制度に係る基準(案)へのパブリック・コメントの報告について 4 その他 5 閉 会 ※ すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍 聴 者 の 数	1名
会 議 資 料 の 名 称	次第、配付資料一覧表、資料1、資料2、資料3、参考資料、 追加資料
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	林桂委員、田中公明委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局	<p>1. 開会</p> <p>開会の宣言、傍聴の確認</p>
和泉会長	<p>2. あいさつ</p> <p>和泉会長挨拶</p>
事務局	<p>配付資料の確認</p>
和泉会長	<p>会議録署名人の指名</p> <p>林桂委員と田中委員を指名。委員了承。</p>
事務局	<p>3. 議事</p> <p>(1) 量の見込みの考え方について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料1 保育の「量の見込み」について</p> <p>(主な説明概要)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の審議会で出された意見は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ① 待機児童を最大限反映させる。 ② ニーズ調査の潜在的な声を現実の値に最大限反映させる。 ・ 前回いただいた意見を踏まえ、多くの算出方法で量の見込みを再計算した。今回配付している資料1は、その中で3つのカテゴリーに分けて複数案を提示している。 ・ 資料1の見方は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ① ニーズ調査結果と併せるため、年齢別で見込みを算出。 ② 現行定員数は既存の保育所の定員数。 ③ 【国手引き】欄の数値は、昨年度の審議会で説明したニーズ調査結果の数値。なお、0歳児については、国が補正の算出方法（育児休業中の保護者を控除する算出方法）が示されたので、その計算式に当てはめて計算をしたところ、36.2%まで割合が落ちた。しかしながら、依然として数値は

高いままである。他自治体を見ても同じ傾向が出ている。

④ 【吉川市実績】欄の値は、計画が5年間であるため、5か年平均で算出。なお、0歳児については10月時点の数値を使用し、それ以外は4月時点の数値を使用している。

⑤ 【吉川市実績】欄の5か年平均の数値は、これだけを見ると、ニーズ調査結果の潜在的な数値が反映されていない状態である。そこで、就学前の児童を持つ保護者に実施したニーズ調査設問の問13で、「現在保育所を利用していない」と回答した者のうち、問14の今後利用したい施設等の設問に保育所と回答した者の声を反映させることにした。

事務局としては、問14が複数回答になっていることに注目し、まずは保育所を単独回答について分析した。さらに複数回答については、按分（例：3つ選択した者は $1/3$ 人 $=0.33$ 人として算出）したうえで、さらに補正を（5割掛け～9割掛け）して算出した。算出方法は、統計学の「標本誤差」を使用している。標本誤差は、市民意識調査でも使用している方法である。

今回のニーズ調査は、全員の保護者から回答を得たわけではないため、量の見込みを算出するに当たっては、全体に割り返す作業が必要である。標本誤差とは、この割り返す作業をする際にどこまでの範囲であれば調査結果が正当な値と言えるのか、その範囲を計算する方法である。しかし、結果としては非常に高い値となっている。

なお、ニーズ潜在需要基準は基本の値で、それに対して下限と上限の値が出ている。

⑥ 保育所過去実績資料について、対象児童数は前回の審議会での意見を踏まえ、既入所者数に待機児童を最大限加えた数値となっている。入所率も待機児童を含めた率となって

いるため、「保育所に入りたい」という声を汲み取った値になっている。

また、参考として3か年平均や一番高い割合を算出し、表に掲載しているのので、保育所のトレンドを把握してほしい。

⑥ 【国手引き補正】欄の数値は、【国手引き】欄のニーズ調査結果の割合に補正を掛けて割り落としたもの。

- ・以上の案を参考としていただき、審議会として保育の量の見込みを算出するにあたっての考え方や方向性をご審議いただきたい。
- ・他自治体の傾向を見ると、今回のようにニーズ調査結果を補正して審議会で決定するパターンやニーズ調査結果ではなく、過去実績等で決定するパターンなどが多く見られた。吉川市においては、昨年度実施したニーズ調査結果を補正で割り落とすことによって、ニーズの声を最大限反映させていきたい。
- ・今回お示しした数値は、平成27年度の人口推計を使用したもの。次回の審議会で平成28～31年度までの数値を事務局でシミュレーションし、確定させたいうえで、さらに中学校区域別の数値として審議会にお示ししたい。
- ・学童の数値については現在検討中であるため、保育の数値と併せて次回の審議会でお示ししたい。
- ・量の見込みについては、9月に国へ中間報告することになっているため、次回の審議会で数値を決定させていただきたい。

(質疑応答)

林美希委員

量の見込みが決定し、確保方策よりも数値が高く出た場合、例えば保育所を新設するなどの対応が取られる場合もあるのか。

事務局	<p>量の見込みが確保方策よりも高かった場合は、それを解消するための方策を考えていくことになるので、保育所の新設や定員数の見直しなどをする可能性はある。</p> <p>今回ご審議いただく際には、過去実績などを基準にして考えていただければと思う。また、例えば0歳児は案③、1・2歳児は案④、3～5歳児は案③と④の間のように複数選択する形になってもかまわない。</p>
林美希委員	<p>0歳児の保護者は不安などがありながら育児休業を取得していると思う。特に第一子の場合は尚更であるため、精神的なフォローも必要である。</p>
和泉会長	<p>平成25年度実績を見ると、どの年齢も増加している。5か年平均で見るとも良いが、全体的に増加傾向であるのに、数値が下がるというのは考えにくい。</p>
林美希委員	<p>数値のラインを決めるのが難しい部分もあるため、事務局で何かヒントのようなものを提示できないか。</p>
事務局	<p>実績を分析していく中でわかったこととしては、0歳児については、あまり増加率は感じられなかったところである。また、平成24年度に保育所が2か所新設されたことで、どの年齢も人数が増加している。</p> <p>なお、児童人口は減少傾向にあるが、入所希望者数は年々増加傾向にあることがわかった。この傾向は、平成27年度以降の見込みを考える際に考慮すべきであると考えている。</p> <p>直近の3か年や一番高い割合で考える方法もあるが、分析した者の一つの意見としては、案③と案④の中間が最も考えやすいラインであると思う。実績を見たうえで、一つの参考として</p>

五十嵐委員	<p>捉えていただきたい。</p> <p>待機児童をゼロにするのが目標なのか、程よい値を目指すのか。例えの話だが、待機児童ゼロを目指して失敗する自治体もあると思う。吉川市として何を目指して取り組んでいくのが方針としてないと、数値を決めていくのは難しいのではないか。</p>
事務局	<p>国の考えとしては、平成29年度に待機児童をゼロにすることを目標にして、新制度が始まる。吉川市としても平成29年度に待機児童がゼロになるような計画を作っていきたい。</p>
和泉会長	<p>ゼロを目指すのは当然だと思うが、それだけに捉われるのではなく、過去の実績などを踏まえた妥当なラインを設定する必要がある。</p>
林桂委員	<p>私は自分の子どもが1歳に満たない段階で働き始めたが、子どもが直ぐに熱を出してしまい、1か月間に5回ほど迎えにいかなければいけないような状態だった。私の職場は子育てをしている方が多かったので、環境が良く対応できた部分があった。</p> <p>ニーズ調査結果を見た時、ただ働きたい、何となく働きたいと思っているのか、今現在仕事を探している人なのか、などを考えると、0歳児については増えていく見込みは現実的ではないと思う。私も育児休暇は1年間取りたかったが、会社の要望などがあって早期復帰している。1歳まで育児休暇がとれるのであれば、1歳まで休むのが理想的であると思っている。0歳児を預けて働くのは本当に大変なことなので、実際の0歳児の数値はそれほど高くはならないのではないか。</p> <p>今後、待機児童を解消させるために保育所を新しく整備するというのも実際にはどうなのか。働いている母親の中には、子</p>

和泉会長	<p>どもの関係で退職せざるを得ない人もいると思う。</p> <p>0歳児の意見が出たが、案①の値を見ると、平成25年度の実績から考えてもいきなり倍になることは考えにくいので、妥当な値ではないように思う。先ほどの事務局の話のように案③か④が妥当なラインになってくると思う。</p>
小助川委員	<p>私の中では考え方が2つある。一つは待機児童をゼロにするため、ニーズを最大限見込んだ数値に対して、それを解消できる器を用意するもの。もう一つは、土日に母親が働くから保育所を開けてほしいとなったら開所し、24時間開けてほしいとなったら24時間開所する、のように対応するのが、果たして市民にとって幸せなことなのかという考え。</p> <p>そう考えると、それは違うと思う。働きたい母親を後押しすることはとても大切だが、働きたいと考えていない母親もいる。例えば、子どもが2人いて、2人とも熱を出して病児保育に預けた場合、相当な金額がかかってしまい、パートをしている母親であれば、マイナスの支出になってしまう。正社員であれば何が何でも預けるとなり、社会が後押しをしてあげる必要があると思うが、ニーズ調査での割り切れない数値の大部分は、正社員ではない母親の声が占めているのではないか。そのように考えると、実績値を参考とした数値に近いものを見込みとして考えていく必要があると思う。</p>
和泉会長	<p>今までの意見を踏まえると、現実とニーズの開きを考えたうえで、案①はやはり数値が大きすぎる。</p>
林美希委員	<p>国への報告方法はどのような形で行われるのか。</p>

事務局	<p>保育の量の見込みについては、0～2歳児が3号認定、3～5歳児が2号認定となる。報告する数値は、量の見込みと確保方策のみであり、割合は審議会の中で考えていくためのもので、国には報告しない。</p>
和泉会長	<p>市民に説明することを考えた場合、平成25年度実績よりも低い値で決めるのは考えにくい。過去2年間は特に増加傾向にあり、ニーズ調査結果でも高い数値が出ているのに、今後の見込みが低くなるというのは説明が不十分になると考える。現実を考えても適切ではない。</p> <p>そのように考えると案④の数値は全ての年齢で平成25年度の実績を下回っているため、案④を審議会として採用するのは適切ではないように思う。数値を決めるというよりは、審議会としての方針を示したい。</p>
林美希委員	<p>待機児童については、その理由すべてが適切ではないと考える。例えば、育休を伸ばしたいために待機児童になっている場合や不承諾希望など。それはおそらく0歳児が一番高いのではないか。また、小助川委員が話したように、保育所を整備してどんどん入ってもらえればいいというだけではないような気がする。0歳児のニーズ調査潜在需要下限の値を見ると、本当にこの値でいいのかとってしまう。個人的には110くらいのラインが妥当だと思う。</p>
和泉会長	<p>年齢別の人口予測がわかれば教えてもらいたい。</p>
事務局	<p>0歳児は、平成21～24年度でマイナス90人となっているが、平成24～25年度はプラス80人だった。1・2歳児は、基本は毎年マイナス50人ずつ減っているが、平成26年</p>

五十嵐委員	<p>4月はプラス25人だった。3歳児は、増えたり減ったりしている。平成25年度は600人台まで減っているが、平成26年は増えている。4歳児は、平成25年と26年を見ると、減っている。5歳児は一番人口が多い層だが、直近の3年間を見ると増加と減少はばらばらである。</p> <p>吉川美南駅周辺の開発が進んでいるので、全体の児童人口数が増えてきていると思うので、そこも踏まえながら全体の数値を考えていく必要がある。過去3年間が増加しているため、今後は減少していくという考えは適切ではない。私としては、案③が妥当ではないかと考える。</p>
和泉会長	<p>中学校区を見た時に、学区で差が出てくる。最も児童人口が集中するのは南中学校区域であることを念頭に置いたうえで考えると、案①と②は現実的な数値として考えにくい。案③を中心として検討していくのはいかがか。</p>
田中委員	<p>育休を取りやすくする動きも加味しながら考えると、案③と案④の数値の中で考えていくのが一番妥当だと思う。</p>
和泉会長	<p>審議会の結論としては、ニーズや現実など様々な状況を加味し、案③を中心に数値を検討していただく。ただし、見込みを出すうえで地域差を考慮することや育休を取りやすくする支援策を考慮することなどを加味したうえで政策を展開してもらいたい。</p>
事務局	<p>確認したい。すべての年齢について案③を中心に考えていくことよろしいか。</p> <p>(委員了承)</p>

戸張委員	平成27年から新設される2か所の保育所の定員数について、年齢別の数値を次回の審議会で提示してほしい。
事務局	次回の審議会で提示する。
	<p>(2) 計画素案について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料2 (仮) 吉川市子ども・子育て支援事業計画素案</p> <p>追加資料 計画素案概要</p>
事務局	<p>(事務局から素案の内容を説明)</p> <p>(質疑応答)</p>
林美希委員	子育て支援に年配の方が入りやすい枠組みが出来たらいいと思う。
和泉会長	第2章では、多くのデータがまとめられている。データから見える特徴などを最後にまとめて書いてもらいたい。そうになると、計画に連動性が出てくる。
事務局	現状のデータを踏まえ、見えてくる課題があると思うので、それをまとめたい。ただし、子育てや地域など大きな枠組みの中でまとめていきたい。
田中委員	子育てには長い時間がかかる。そのため、どういう時系列で支援事業が受けられるのかをわかりやすく表現できればいい。
事務局	以前、サービスガイドを作成しているが、制度がその都度変わってしまうため、追いついていないのが現状である。ただし、制度を知りたい人はいると思うので、どのような形で提示でき

和泉会長	<p>るか検討していきたい。</p> <p>計画の目的の一つは、市民に住みやすいまちであることを知っていただくことだと思うので、利用者の目線で掲載してもらえるといいと思う。サービスが沢山あることを伝えてほしい。</p>
小助川委員	<p>基本理念の部分について、具体案として足りないと思う部分が最後の「家庭と地域、行政が互いに協力し、子どもの健やかな成長を支援していきます。」というところ。具体的にもう一步踏み込んだ内容にならないか。素案ではイメージがつきにくい。</p>
林美希委員	<p>素案は、計画として策定した後、どのような範囲で配布するのか。パンフレットなども作成していくのか。もし、計画を市民に配布するのであれば、基本理念がその後の施策等にどうつながっていくのか、体系図などを示してもらえるとわかりやすくなると思う。初めて目にする人にとっては、わかりにくい。</p>
事務局	<p>関係団体を通じて子育て中の保護者や支援団体等に配布することを考えている。計画自体は100部程度の印刷製本を予定している。市民向けには、ホームページ掲載や概要版配布などで対応していく予定。</p>
和泉会長	<p>基本理念の提示の仕方を考える必要がある。市の特徴、基本理念、具体策という流れで記載し、分かりやすい表現にしてみようと、基本理念がより明確になると思う。特に基本理念と最後の施策のつながりを考えられないか。</p>
事務局	<p>基本理念がどのような施策につながっているのか、背景を見やすく、分かりやすく記載できるよう検討したい。</p>

田中委員	基本理念の米印の部分について、何か意味はあるのか。
事務局	子ども・子育て支援法の法律の理念を考慮した文言となっていて、これまでいただいた意見等を踏まえて作成している。
田中委員	最初の一文が何となく消極的に見えてしまう。もっとサービスを利用してくださいという積極的な意味で記載してもらえれば。
林美希委員	意味は伝わるが、市はサポートしていくというという視点で書いてもらえるといい。
和泉会長	書き方の問題があると思うので、掲載場所や表現方法などを検討し、誤解を生まないように記載をお願いしたい。
林美希委員	基本理念に掲げている3つの文章がどれも同じようなイメージを受けるので、分かりやすくシンプルに表現した方がいいと思う。
和泉会長	強調できる言葉やキーワードなどを分かりやすくまとめてもらいたい。なお、気になった部分として、最近は子どもに関する事件などが多く取り上げられているので、子どもの安全・安心を強調するような言葉を入れてもらいたい。
五十嵐委員	私は最後の一文は重要だと思う。市はサポートしていくという姿勢を貫いてほしい。
和泉会長	このメッセージ自体を消す必要はないので、文言の使い方を含め、再度検討してもらいたい。

事務局	<p>(3) 子ども・子育て支援新制度に係る基準(案)へのパブリック・コメントの報告について</p> <p>【関係資料】</p> <p>資料3 パブリック・コメント報告資料</p> <p>(事務局からパブリック・コメントの結果を説明)</p>
和泉会長	<p>(質疑応答)</p> <p>保育所を増やしてほしいという意見については、今後、整備していくという形になってくると思う。また、学童に関する意見は、対象が高学年まで拡大されることを受けてのものであると思う。保育士の確保と質の向上に関する意見については、今後の市の課題の一つになってくると思う。新制度がまだ見えていないため、その中でパブリック・コメントを出すのは難しいと思う。</p>
五十嵐委員	<p>パブリック・コメントを実施してもこのように少ないものなのか。</p>
和泉会長	<p>内容にもよるが、意見を出すのが難しい部分もある。特に今は新制度が見えてこないなので、制度が始まってから意見が出てくるのではないかと。</p> <p>その他、御意見がなければ議事は以上となる。</p>
事務局	<p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局からの連絡事項 <p>参考資料 平成26年度第3回吉川市児童福祉審議会日程(案)</p> <p>① 次回の内容について</p> <p>次回の内容は、次の4点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の「量の見込み」、確保方策の最終案

	<ul style="list-style-type: none">・学童の「量の見込み」、確保方策の最終案（複数揭示予定）・本日の意見及び保育と学童の量の見込みを反映させた計画素案について（10月にパブリック・コメントを実施）・新制度移行後の利用者負担について <p>② 次回の日程について</p> <p>※ 開催時間や日程などを確認し、次のとおり決定。なお、開催時間は今後も午後6時からとする。</p> <p>日程：平成26年9月18日（木）午後6時から</p> <p>会場：吉川市役所第二庁舎204会議室</p> <p>5. 閉会</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>平成26年9月1日</p> <p>署名委員 田中 公明 署名委員 林 桂</p>	